

大ローマ展 もうすぐ始まります！

2009年12月25日

本年度の目玉、「大ローマ展 古代ローマ帝国の遺産 栄光の都ローマと悲劇の街ポンペイ」が、お正月明けからいよいよ始まります（2010年1月6日〔水〕から3月22日〔月・振休〕まで）。現在、展示作業の真っ最中です！



▲この巨大な箱の中にアウグストゥス像が！



▲アウグストゥス像が姿を見せる瞬間。

本展のメイン作品《皇帝座像（アウグストゥス）》の展示作業風景です。とても大きくて重い作品なので（2メートル15センチ、約3トン）、「門型」（もんがた）と呼ばれる機械を使って吊り上げ、苦労して展示台の上に載せました。箱が外され、アウグストゥスの神々しい姿が現れると、作業を見守っていた皆の口から、思わず「おお！」という感嘆の声が漏れました。



▲組み立て前の《アレツォのミネルウァ》。所蔵館の担当者が各パーツを点検中です。

本展特別出品となる古代ギリシアのオリジナルのブロンズ像《アレツォのミネルウァ》です。1体の彫刻作品ですが、このようにいくつかのパーツに分かれます。



▲だんだん組み上がって来ました。

時間をかけて、パーツを一つ一つ丁寧に組んでいきます。ようやくあとは首だけとなった段階で、周囲の期待はクライマックスに！ 無事に首が据えられると、皆の大きな拍手が会場に鳴り響きました。



▲ポンペイの「黄金の腕輪の家」の壁画群。

ポンペイにあった豪華な個人邸宅「黄金の腕輪の家」の壁画《庭園の風景》の内の二壁分が、元の配置のままに展示されます。東壁（左側）の3段と南壁の2段が組み上がったところです。このあと、東壁の方にはさらに「ルネッタ」と呼ばれる半円形の部分が載せられ、全高は展示室の天井（5.5メートル）ギリギリにまでなります。

こんなふうに見所いっぱいの大ローマ展ですが、それらがどのようにして展示されたのかを思い描きながら各作品を鑑賞していただければ、きっと展覧会の面白さが増すことと思います。展示作業は順調に進行中。お正月明け6日からの公開です。どうぞお楽しみに！

(T.O.)